

保護者の皆様、日頃は津和野高校のPTA活動にご理解・ご協力を賜り、まことにありがとうございます。  
今年度もPTA総会をはじめ、「ツコウ祭」のPTAバザー、鍛錬行事での歩行指導・昼食準備・エイドステーション設営など、保護者の皆様のお力を借りる場面がたくさんありました。今回、3名の保護者の方に原稿を寄せていただきましたので、ご紹介いたします。

## 「鍛錬行事に参加して」松浦利幸

平素より、PTA活動にご理解とご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。今年度で会長3年目となりました。残りわずかではありますが、よろしくお願いします。

さて、会長になって毎年の「鍛錬行事」では生徒たちと一緒に歩いています。スタート地点から津和野高校まで、約40キロ。車を使えば1時間弱ですが、歩くとなると9時間くらいの道のりです。なんてこんなことするのか?と初めは思っていました。生徒たちの中にも、きっとこういった思いを持つ子も多いのではないかと思います。しかし、実際に歩いてみて気づくことがあります。昼食の絶妙な塩加減のおにぎり、身体に染み込む豚汁。これらは世界一の料理です。エイドや交通整理をしながら応援してくれる保護者の皆さんの声かけがどんなに心強かったことか。今年も無事ゴールにたどりつけたのも、こうした多くの方々の支えがあったからこそです。きっと生徒たちも同じように気づいてくれていると思います。皆さん、ありがとうございました。

## 「PTAバザー・鍛錬行事に参加して」大庭由奈

昨年、我が子が津和野高校に入学して、子も親も関わる人が拡がりました。子どもは日々の学校生活で同級生・先輩・先生方を覚えていくけど、私(親)は学校行事も生徒さんも先生もPTAもわからない事だらけでした。だから少しでも学校と近づけるように行事に参加し、いろんな人と顔見知りになり、楽しみながら皆さんと仲良くなれている気がします。

PTAバザーには、1年生の時は体育祭、今年は文化祭と体育祭のバザーに参加しました。体育祭のバザーは、昼食を作りながら、交替で食べたり、競技を見たり、こちらも運動会みたいでした。

10月は鍛錬行事です。以前から話は聞いたことがあり、40km歩くのってどんなんだろう?と思っていました。子どもが津高に入学して、「これはチャンス」とボランティアに参加。昨年ではできるボランティア全部にチェックをいれたら歩行誘導になり、ご一緒したお母さんと楽しくしゃべりながら我が子や他の生徒さんたちの頑張りを近くで応援しました。今年は「歩きたい」と思い、歩行指導で参加。子どもたちと同じ道を一緒に歩いてみて、みんな本当に元気で、ずっと友達同士でしゃべっているし、トンネルに入れば大騒ぎして、その楽しい雰囲気を感じながら歩きました。私は途中でリタイヤしてしまいましたが、やりたい事を、やれるだけやったので満足です。

学校行事に参加する事は私にとって「義務」ではなく「チャンス」だと思っています。我が子が津高に入学したから行事に出向いて行けます。これからも行ける行事にはしっかり参加したいと思います。

## 「初めてのツコウ祭とバザー」松原佳毅

長男が高校生になり、親子で初めての高校生活となりました。学校や部活、寮生活など高校生活を少しでも知りたくてバザーのお手伝いに参加しました。バザーでは机を並べたり、かき氷を作ったりしました。かき氷などを買いに来てくれた生徒さんたちから気持ちの良い挨拶やお礼の声を聞くことができ、心温まる時間でした。また、質問や会話では、思春期でも恥ずかしがる事なくハキハキと受け答えしてくれた事が嬉しい瞬間となり、お手伝いして良かったなと思いました。

小学生の娘もツコウ祭に遊びに行かせていただきました。丁寧な言葉遣いで優しく教えてもらったり、相手が喜ぶような掛け声で応援してもらった事が嬉しかったと言っていました。また来年も行きたいと楽しみにしていました。

長男がツコウ祭で友達と楽しんでいる姿やお客さんに対応している姿などに成長を感じ、また高校生活を楽しくしていることに安心も感じました。

バザーのお手伝いやツコウ祭を通して貴重な経験をさせていただきありがとうございました。

来年のツコウ祭も高校生、その周りの様々な年代の大人や子どもたちみんなが楽しい時間を過ごすことができる場所になるよう願っています。



## 全国高等学校PTA連合会大会茨城大会参加報告

津和野高校 校長 松田 哉

本大会は、茨城県水戸市で8月22日（木）と23日（金）の2日間で開催されました。様々な行事がありましたが、私自身に強く印象に残っている記念講演について報告します。

演題は「人材育成の不易流行」、講師は元横綱・稀勢の里（茨城県出身）の二所ノ関寛氏でした。引退会見では、「私の相撲道において、一片の悔いもございません」と語り、土俵を去りました。目先の勝利を求めて小細工に走ることなく、正々堂々と真っ向勝負を挑む姿が全国の相撲ファンの心をわしづかみにしました。15才で角界入りし、新十両と新入幕をいずれも史上2位の若さで果たしました。横綱白鳳の連勝を63で止める大金星を機に更に飛躍し、25歳で大関に昇進し、多くの試練を乗り越えての初優勝、そして横綱に昇進しました。大怪我を負いながら奇跡の逆転V等、数々のドラマを土俵に刻んできました。現役時代は多くを語らず、黙々と土俵に上がり続けた横綱が引退して親方となった今、相撲道を飾らない言葉で語ってくれました。

親方は現役引退後、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科修士課程で学びました。きっかけは、スポーツ業界に関するある疑問だったそうです。それは、「プロ野球にはドラフトがあるが、なぜJリーグにはドラフトがないのか？」というものでした。Jリーグの関係者に尋ねたところ、「各チームが小学生から選手を育成している」というのがその理由だったそうです。これを聞いた親方は、相撲でも子どもたちを小学生から地域に密着して育てたいと思ったそうです。そして、そのことも含め広くスポーツ経営について大学院で研究したいと考えました。大学院の授業で親方が衝撃を受けたのは、「あなたが稀勢の里だったらどんな相撲部屋を作りますか？」と院生全員に問いが出され、その答えのプレゼンをした時だそうです。親方以外の全ての院生が、茨城で相撲部屋を運営することを提案しました。相撲界の常識では部屋は東京の両国周辺に作るもので、他県に出て行くことはあり得ないことだそうです。その後、親方は大学院でスポーツビジネスを学び、地元密着型の人材育成や普及活動ができ、加えて、部屋を維持するための資金も地元企業や地元後援会に依頼することのできる、相撲界にはそれまでなかった東京以外での相撲部屋というビジネスモデルを茨城で始めました。

改革は部屋の設置場所や資金面だけにとどまらず、様々に行っています。例えば、一般の部屋では、食事は1日2食で、毎日稽古をします。「かまぼこ力士」と言って、壁に張り付いて何もしていない（土俵に限られているので練習に入れられない状態）力士もよく見られるそうです。二所ノ関部屋では、食事は1日3食を摂らせて体力向上を図り、怪我防止を目的に朝の稽古開始時刻を遅くし、相撲をとらない日も作り、基礎トレーニングだけで済ませるそうです。また、「かまぼこ力士」を作らないようにするために、土俵を2面作り、効率よく稽古をしています。また、2面あることで、時には子どもが隣で稽古し、普及活動や地域交流が可能となりました。一方で、昔から相撲界で重要視されている基礎運動としての四股（しこ）・すり足・テッポウは稽古の中では最重要視しているそうです。

さらに練習面以外での改革も推し進めています。一般の部屋では、縦社会が常識であり、ど根性を重んじる精神論が主流です。一方、二所ノ関部屋では、番付を規律とするものの全員がフラットな立場であることを基本とし、コンプライアンスを重視した環境（暴力根絶）を構築し、部屋の中での業務の分担制度も導入しているそうです。また、栄養士による栄養指導を取り入れたり、資産形成の学習会を開いたり、健康安全面や将来のライフプランについても見通しがもてるよう工夫をしています。

親方が育てたいと考えている「目指す力士像」は、「皆様に愛される力士、怪我に強い力士、受け身でなく自分自身で考え抜く力士」だそうです。稀勢の里は、新十両に昇任したのは歴代2位の早さでしたが、横綱への出世は圧倒的に遅かったそうです。本人さん曰く、「考える力が足りなかった」からだそうです。

二所ノ関部屋の現在の育成結果は、44ある部屋の総合勝率は1位だそうです。親方は大学で学んだスポーツ科学の考え方を様々な領域に取り入れ、相撲界に新風を巻き起こそうとしています。変革に対する外部からの軋轢や障害がないわけではないそうですが、相撲界全体の変革のために「結果を残して証明したい」と意気込んでいました。



令和6年度の中四国大会は、高知県で開催されました。会場の高知県立県民文化ホールには、前日までの雨もあがり約 1000 人の会員が集まりました。

開会行事で中四国地区高P連会長の佐竹大樹氏は、「技術や働き方で社会は大きく変わりつつあるが、今も昔も子供たちの健康やすこやかな成長を願う私たちの気持ちは変わらない。」と挨拶されました。

講演では、「夢を叶えるジョンマン・スピリット」と題し、ジョンマン語り部の垣内守男氏が中濱万次郎の14歳以降の生涯を3つに分け、漂流、渡米、帰国を経験した14歳以降、坂本龍馬、勝海舟、福沢諭吉、西周らに英語を教えていた 24 歳以降、そして開成学校（現東京大学）で教授していた時代を含む 34 歳以降71歳で没するまでの生涯をユーモアを交えながら語られました。その中で、現代の高校生たちに、『とにかく一歩踏み出す』というジョンマンスピリットを伝えたい。これは誰もが持っているDNAを呼び覚ますことでもある。『でも、だって、どうせ』といういわゆる3Dを3C『Chance、Change、Challenge』に変えてゆきたい。万次郎の中に見るスピリットを子どもたちの教育財産にしたいとの思いを語られました。そして最後に、「25歳までに get your spirit for the future 」と締めくくられました。万次郎の「諦めない、投げ出さない、人の役に立つ」という姿勢は、本校のスクールポリシーである「やってみたいをやってみる、自分らしく、だれかのために」と通ずるものを感じました。

高校生による発表は、県立高知丸の内高等学校、県立高知農業高等学校、県立大方高等学校、高知市立高知商業高等学校がありました。研究協議では、下関双葉高等学校（山口県）、米子東高等学校（鳥取県）、高知国際中学校・高等学校（高知県）の3つの高校のPTA会長がそれぞれの取組を発表されました。

令和7年度の中四国大会は、島根県で開催されます。会員の皆様のご参加をよろしくお願いいたします。

### 〈令和6年度 今後の主な行事〉

12月25日(水)終業式

12月23日(月)～12月27日(金)保護者面談

12月27日(金)閉寮

1月 5日(日)開寮

1月 8日(水)始業式・課題テスト

1月 15日(水)～1月 17日(金)3年学年末試験

1月 18日(土)、1月 19日(日)大学入学共通テスト

2月 20日(木)～2月 26日(水)1,2年学年末試験

2月 28日(金)卒業式予行、3年生同窓会入会式

3月 1日(土)卒業式

3月 3日(月)振替休日

3月 24日(月)終業式

